

マアジ

生態的特徴等

【生態】

日本近海には、東シナ海を主産卵場とする群と本州中南部以南の地先で産卵する群れがいて考えられている。茨城県で漁獲されるマアジは、後者が主体で太平洋系群と呼ばれている。

産卵期は、豊後水道や紀伊水道外域では冬から初夏、相模湾では春から初夏である。

仔稚魚は成長するにつれて大型の動物プランクトンを摂餌し、幼魚期以降では魚食性が強くなる。成長は1歳で尾叉長18cm、2歳で24cm程度となる（図1）。寿命は10歳以上の報告もある。

【漁法と盛期】

茨城県では主にまき網や底曳網などで漁獲され、主な漁期は春季と秋季である。

【利用】

刺身、タタキ、塩焼き、寿司などの他、開き干しとしても利用される。DHA、EPA、ビタミンDなど健康に良い栄養成分が多い。

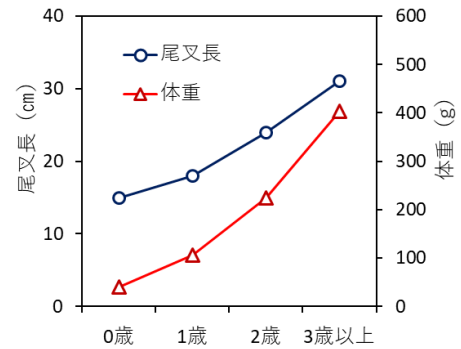


図1 マアジ太平洋系群の年齢と成長

資源水準は中位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）太平洋系群の漁獲量は、H8年の8万トンを超え、H9年以降は減少傾向となり、近年は1.5万トン前後で推移している（図2）。茨城県の漁獲量は、H8年の2.9万トンを超え、H9年以降は減少傾向となり、近年は180～730トンで推移している（図2）。

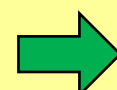
（水準と動向）国の資源評価（R5年度）によると、資源水準は「限界管理基準値を上回るが、目標管理基準値を下回る」、資源動向は「横ばい」とされている。

水準



(国)

動向



(国)

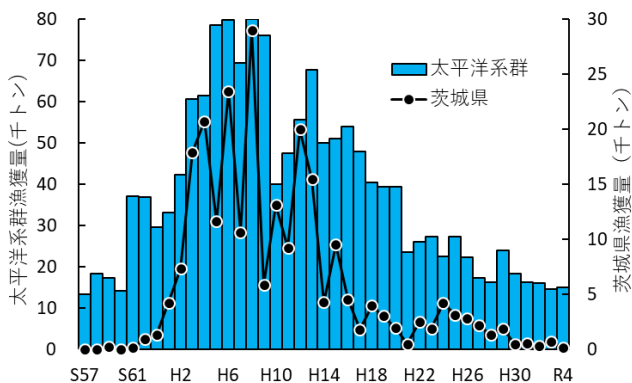


図2 マアジ太平洋系群漁獲量*1の推移

*1 宮崎県～青森県の漁獲量

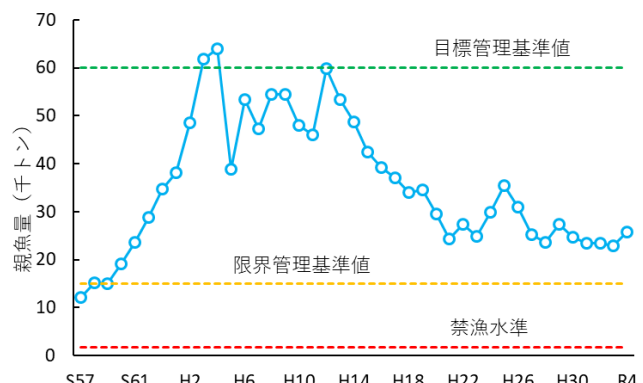


図3 マアジ太平洋系群の親魚量と管理基準値*2

*2 新たな資源管理 (MSY) に基づく管理基準値

【全国の漁獲動向】

・農林水産統計によると、R4年における全国の漁獲動向は、1位は長崎県、2位は島根県、3位は愛媛県、茨城県は29位。

評価期間：令和4年1月～令和4年12月 更新日：令和6年3月27日

引用：井元順一・安田十也・渡井幹雄・日野晴彦・木下順二・河野悌昌・高橋正知（2024）令和5（2023）年度マアジ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産研究・教育機構，東京，55pp，https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_03.pdf.

評価期間：令和4年1月～令和4年12月 更新日：令和6年3月27日

引用：井元順一・安田十也・渡井幹雄・日野晴彦・木下順二・河野悌昌・高橋正知（2024）令和5（2023）年度マアジ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価。水産庁・水産研究・教育機構，東京，55pp，https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_03.pdf.